

教科書採択に係る第7回土岐市教育委員会定例会（R2.7.21）議事録

◆【議長：山田教育長】

本件について、事務局の説明を求めます。

◆【事務局説明員：三宅教育次長】

議第21号について説明いたします。議案集3pをご覧ください。

小・中学校用教科用図書については、土岐市教育委員会事務委任等に関する規則第2条第1項第1号の規定により、次のとおり採択するものとする。

令和3年度に使用する小・中学校用教科用図書については、令和2年度教科用図書東濃採択地区協議会において採択した原案どおりのものとするものについて、この場で議決をお願いするものです。

議決の事項は大きく2点です。別冊採択関係資料1/3の2pをご覧ください。この議決書に示されておりますように、まず、来年度から新たに使用する中学校の教科書を東濃採択地区協議会において決定したとおり採択すること、もう1点は来年度に使用する小学校の全教科書を東濃採択地区協議会において決定したとおり今年度と同一の教科書とすることです。

はじめに、今年度使用している小学校用の教科用図書を来年度も継続して使用することの議決について説明します。資料11、12pをご覧ください。令和2年度の使用教科書は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条の規定などにより毎年度、種目ごとに同一の教科用図書を採択するものとされ、その期間も同法律施行令15条により4年とされています。小学校については令和2年度から使用されていますので、教科書の発行が行われなくなった等の事態がない限り、令和3年度も本年度と同一の教科書を来年度も採択することとなります。14pはその一覧であり、これらの教科書を来年度も使用することを決定していただこうとするものです。なお、現在使用している教科書に不都合や採択に公正を欠くなどの報告及び展示会での著しいご意見はございませんでした。

◆【議長：山田教育長】

まず、議決書にある2の令和3年度使用小学校用教科用図書については、令和2年度教科用図書東濃採択地区協議会において採決した通り、令和2年度使用教科用図書と同一のものを使用するというものについて質疑討論を行います。質疑や討論がございましたら、よろしく申し上げます。

◆【伊藤教育委員】

昨年採用された小学校の教科書について、1年使ってみて、またコロナ禍で自学自習的に使用しなければならない中で、何か不満のようなものは出ていませんか。

◆【事務局説明員：三宅教育次長】

使用をはじめて数か月であるが、学校の現場からは不都合があるという意見は出てきていません。

◆【伊藤教育委員】

教科書には子どもが自学自習を進めやすいように詳しく示してあるものと学習のきっかけだけ示し続きは先生にお任せというものに分かれていると思います。これまでは先生にお任せというもので選定がされてきているように思います。今のコロナの状況で、教科書だけでの自学自習は難しいのではないのでしょうか。先生の方で補充プリントのようなものを出してもらっていると思いますが、先生の負担も増えているのではないのでしょうか。この先のコロナのことも考えると、先生寄りの教科書というのは不安があるがどうでしょうか。

◆【事務局説明員：三宅教育次長】

家庭学習の大切さも今回の選定のポイントになっています。東濃は新しい先生が指導しやすい教科書も一つのポイントです。教科書だけで進めていける点ではクリアできています。休業中の学習プランニングシートも子どもが教科書を使って進められている実績もあるので、家庭学習にも適しているといえると考えます。

◆【議長：山田教育長】

この後審議する中学校用教科書もそうですが、現行の教科書もコロナを想定していません。個人的な意見ではありますが、4年後の採択にも大きくかわってくる可能性もあるのではないかと思います。新しい教科用図書の考え方も生まれてくるのではないのでしょうか。

では、令和3年度使用小学校用教科用図書については令和2年度使用教科用図書と同一のものとするというについて、ご意義はないのでしょうか。「全員一致で議決」とさせていただきます。

◆【事務局説明員：三宅教育次長】

次に来年度から新たに使用する中学校の教科書を採択することについて説明します。このことにつきましては、令和3年度から使用します中学校の教科書の採択につきまして、教科書採択に関わる関係法令及び東濃採択地区協議会規約（p4）、運営方針（p8）に則りまして議決を求めるものであります。小・中学校の教科書採択につきましては、【義務教育諸学校の教科書図書の無償措置に関する法律】第12条により、採択地区を設定し、同法律の第13条により、当該採択地区内の市町村教育委員会は、協議して種目ごとに同一の教科書を採択しなければならないこととなっています。また、採択の権限は各市にあります。東濃採択地区協議会で決定された結果を土岐市に

においても同様に議決することとなります。

去る7月9日に採択地区である「東濃採択地区協議会」が開催され、協議の末、協議会として各教科1者に選定されました。その1者は資料3p教科用図書選定一覧に記載されているとおりです。協議会の決定を尊重し、土岐市としても協議会で選定したように、採択を議決していただくものです。

協議会で1者の選定に至るまでには、協議会において委任された各教科の研究員による綿密な調査研究がなされ、その内容が協議会の場で報告されました。採択関係資料3/3をご覧ください。そこでは、各教科の教科用図書として文部科学省の検定を通過した教科書全てについて、採択関係資料1/3の10pに示しました調査項目、着眼点などを定めた採択基準をもとに、着眼点を教科の特質にあわせてより具体化し、比較検討がなされています。この採択基準は、県の着眼点をもとに、東濃地区の教員、児童の実態を踏まえ、独自の着眼点を追加して設定しています。この基準を基にした研究結果を採択関係資料3/3にて教科ごとにまとめて載せております。

研究員の報告によれば、全ての教科用図書の比較検討を着眼点に沿って行い、2～3者に絞り込んだうえで、さらに詳細にわたって比較検討を行っています。その比較の結果は、採択関係資料2/3に掲載しております。それでは、協議会において1者の選定に至った理由について、各教科の研究員の報告の概略を説明いたします。採択関係資料2/3をご覧ください。令和3年度使用小中学校用教科用図書選定理由書にてご確認ください。

まずは、国語です。資料1～3pをご覧ください。

- ・「読むこと」の文学的文章教材では、学習目標の注目点を「学習の窓」で解説しており、終末の言語活動を、学習目標に沿う形で学べるよう十分配慮されている。
- ・全学年に情報の単元が設定されている。情報の扱い方や見方・考え方が3年間を通して身に付けられるよう十分配慮されている。
- ・学校図書館における指導として、1年生の「情報を集めよう」では、図書館での本の探し方や本の中からの情報の探し方を紹介し、基本的な図書館利用方法を理解できるようよく配慮されている。
- ・学び方は、「学習の窓」「情報整理のレッスン」「思考のレッスン」が設定され、学年ごとに系統的に学べるよう十分配慮されている。
- ・折り込みは1年生と3年生は2枚ずつ、2年は3枚ある。「学習の見通しをもとう」のページでは、必要な情報が得られるよう紙面の構成が十分図られている。

これらの点から「光村図書出版」の教科書が優れていると言えます。

次に、書写です。資料4～5pをご覧ください。

- ・小学校との系統性を強く意識して構成されている。3年生では身の回りの多様な文字を通して文字文化の豊かさに触れ、1・2年生からの発展性に

においても十分配慮されている。

- ・社会や生活との関わりの中で学ぶ「生活に広げよう」において、他教科や学校、社会生活との関わりの中で、学んだ知識・技能を生かすことができるように十分工夫されている。
- ・「生活に広げよう」では、他教科や領域に関連させた内容が多く取り上げられており、書写で身に付けた知識・技能を他教科で生かすことができるようによく配慮されている。
- ・導入の「見つけよう」で、2パターンの文字を比較することを通して課題を焦点化させ、「生かそう」では他の文字に生かして書くという学習の流れが明確で、指導しやすく十分配慮されている。
- ・巻末資料は、学校生活で実際に使えるように十分配慮されている。これらの点から「東京書籍」の教科書が優れていると言えます。

続いて、社会科（地理）です。資料6～7pをご覧ください。

- ・単元導入部に、「見方・考え方」が示されており、それらを活用して「見方・考え方」を働かせるコーナーが学習過程の中に適宜位置付けられ、学習を深められるように十分配慮されている。また、「スキルアップ」コーナーが系統立てて随時配置され、基礎的な知識や技能が確実に習得できるよう十分配慮されている。
- ・「地理にアクセス」のコーナーで、関連した内容やより詳細に説明した内容が取り上げられ、視点も示されており、学習内容を深く理解できるよう十分配慮されている。
- ・ICT機器を活用して利用できるコンテンツを用意し、該当箇所には「Dマーク」が付けられ、学習への興味・関心を高められるようよく工夫されている。
- ・「日本の諸地域」の単元の終末では、「まとめの活動」が位置付けられ、思考力・判断力・表現力を育成するのに十分配慮されている。
- ・一つ一つの資料が大きくてわかりやすいように十分配慮されている。これらの点から「東京書籍」の教科書が優れていると言えます。

続いて、社会科（歴史）です。資料8～9pをご覧ください。

- ・一授業時間の学習課題を解決する「チェック&トライ」が設けられ、基礎的・基本的な事項を確認する「チェック」と要約や説明をする言語活動の「トライ」の2段階で学習内容が確実に定着するように十分配慮されている。
- ・単元全体を貫く「探究課題」を立てる「導入の活動」から、一授業時間の導入資料が掲載されており、学習意欲の喚起につながるよう十分配慮されている。また、教科書の文章を補完する資料が大きく提示されており、資料に付した「図番号」が本文にも表示されているので、生徒にとって理解しやすいよう十分配慮されている。

- ・琉球やアイヌ文化について「もっと歴史」を掲載し、通史だけでなく多文化共生の視点を持つことができるよう十分配慮されている。
- ・章末で学習を整理する手立てが大変充実している。
- ・UDフォントを使用し、色覚特性にも配慮した色を用いており、用語解説、人名索引、事項索引などの巻末資料が十分な量で掲載されている。これらの点から「東京書籍」の教科書が優れていると言えます。

続いて、社会科（公民）です。資料10～11pをご覧ください。

- ・自分の考えをまとめたり、発表・議論したりする章末の「まとめの活動」は、単元の入り口の活動とよく対応しており、問いを軸に単元を通して「思考力、判断力、表現力」を育成する工夫が十分なされている。
- ・「導入の活動」や「みんなでチャレンジ」を位置付けるなど、主体的で対話的な学習を進められる工夫が十分図られている。
- ・新聞資料を豊富に取り上げ、生徒が学習内容を身近に感じられる工夫がよく図られている。
- ・各章では、導入の活動と関連させたまとめの活動を具体的に示すことで、単元を通してつながりのある学習指導と、その評価を行うことができるよう十分配慮されている。
- ・本文にUDフォントを採用し、カラーユニバーサルデザインやフラットデザインに十分配慮されている。これらの点から「東京書籍」の教科書が優れていると言えます。

続いて、社会科（地図）です。資料12～13pをご覧ください。

- ・日本および世界の自然、産業、歴史など様々な情報を地図上に記し、空間認識を伴った幅広い知識が身に付くように十分配慮されている。また、世界の州が大きな鳥瞰図で記されて、興味をもてるよう十分工夫されている。
- ・地図帳の構成や方位、地図記号、索引の使い方など、地図帳の基本的な見方や使い方が巻頭の「地図帳の使い方」で、生徒にわかりやすく解説されており、学び方が身に付くよう十分配慮されている。
- ・環境を中心に、SDGs（持続可能な開発目標）の観点に基づいた資料が豊富に掲載されており、生徒が調べやすいように十分配慮されている。
- ・「地図活用」のコーナーを設け、教員の経験年数に関わらず扱いやすいようになっている。生徒の思考を深める補助発問に活用できるよう十分配慮されている。
- ・首都は黒、国名は赤で統一されていて、色鮮やかな中で見やすいよう、大変よく配慮されている。これらの点から「帝国書院」の教科書が優れていると言えます。

続いて数学です。資料14～15pをご覧ください。

- ・学習指導要領記載の数学科の目標や内容等を考慮し、教科書の題材や学習

内容、学習活動の構成・配列がなされている。また、既習の学習内容とのつながりを丁寧に扱うなど十分配慮された構成・配列になっている。

- すべての単元において、身に付けた知識・技能を活用して問題解決する場面が位置付けられており、学んだことをより深めたり、新たな数学のよさを発見したりできるよう十分配慮されている。
- 数学をよりよく学べるよう、QRコードを用いたデジタルコンテンツが50準備され、コンピュータや情報通信ネットワーク等を活用できる工夫がされている。
- 教科書の各ページに、学習活動の配当時間が例示されており、教師による授業展開や生徒の家庭学習時間（予習）の目安として活用できるよう十分配慮されている。
- UDフォントが使用されている。また、第1学年は他学年よりも1段階文字が大きくなっており、生徒の発達段階に応じて配慮がよくなされている。これらの点から「大日本図書出版」の教科書が優れていると言えます。

続いて理科です。資料16～18pをご覧ください。

- 季節や系統性を考慮して4領域を配置している。知識・技能の習熟をねらい、章末問題や単元末に「学習内容の整理」や「確かめと応用」が用意されている。
- 「日常生活や社会との関連」は3学年で合計149箇所あり、十分な量である。章末の「学んだことをつなげよう」では学習したことを日常生活につなげることができるよう工夫している。「他教科等との関連」は3学年合計41であり、5者で最も多い。
- 保護メガネの着用、ケガに注意、薬品の取り扱いに注意など、安全上の留意事項に対して視覚的に注意を喚起するよう工夫している。巻末資料には、「理科室の決まり」、「地震が起きた時の対応」、「応急処置」等が掲載されている。
- 「問題発見」から「課題に対する結論を表現しよう」まで、授業の流れに沿った構成となっており、結果の分析や考察のための視点が位置付けられている。
- 目次と凡例等を見開き1ページで示していることや、イラストに使用する色を制限する等、ユニバーサルデザインによく配慮しており、見やすい。これらの点から「東京書籍」の教科書が優れていると言えます。

続いて音楽です。資料19～20pをご覧ください。

- 音楽科で身に付ける資質・能力が生徒にも分かるよう構成されており、何を学ぶのかを3つの資質・能力で明示している。また「音楽を形づくっている要素」についても教材ごとに表示し、大変工夫されている。
- 学習の意義を社会や生活との関わりの中で実感できる題材が充実しており、音楽文化についての理解を深める学習ができるよう大変配慮されている。

さらに、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育むことができるよう、資料の工夫が十分図られている。

- 地域に伝わる伝統音楽の歴史やよさを学び取ることで、次世代に受け継いでいくことの大切さを感じ取ることができるよう大変よく工夫されている。
- 二次元コードなど教材についての資料が示され、教材研究に配慮されている。また、9か年の系統性や既習事項とのつながりが明確で、指導計画が立てやすい。
- UDフォントを使用し、鮮やかな写真やイラストを多く掲載している。綴じ紐で製本されていることで開きやすく、大変扱いやすい構造となっている。

これらの点から、「教育芸術社」の教科書が優れていると言えます。

続いて器楽です。資料21～22pをご覧ください。

- リコーダーの学習では、写真や図が豊富で、こつを分かりやすく説明する等大変配慮されている。また、様々な難易度の練習曲が掲載されており、技能向上に十分な分量である。
- 学んだことを生かすアンサンブルの教材や、ソロで演奏できる教材があり、クラシックからポップスまで、幅広いジャンルから教材が取り上げられていて、レポートリーを増やしたくなるような教材が大変充実している。
- 「日本音楽の楽器編成」では、我が国の伝統芸能で使用される和楽器が一目でわかるよう大変工夫されている。
- 学習目標や共通事項が一目で分かるように明示されていて、指導計画が立てやすい。また、奏法の図解等、技能の定着を図る配慮が大変よくされている。
- UDフォントを使用し、鮮やかな写真やイラストを多く掲載している。綴じ紐で製本されていることで開きやすく、大変扱いやすい構造となっている。

これらの点から、「教育芸術社」の教科書が優れていると言えます。

続いて美術です。資料23～24pをご覧ください。

- 3観点について、各題材においてバランスよく配置されている。また、発想したことが鑑賞に、鑑賞したことが発想や構想に生かされるように工夫されている。
- 生徒が自ら主題を生み出せるように、様々な作品や情景写真、発想や構想の手立てを掲載し、一人一人の発想・構想力を育んだり、表現の幅を広げたりできるなど、主体的に学習に取り組む態度の育成に効果的である。
- 映像メディアを活用した学習として、撮影した動画や画像を編集し、映像を使って情報を伝える題材が位置付いている。デジタルカメラを使用した構図や撮影ショットによる効果、動画作成の手順、VRの鑑賞などの事例・技法も効果的に位置付いている。

- ・見開き2頁で一つの題材が扱われ、生徒作品、作者の言葉等が位置付き、題材の流れがイメージしやすい構成になっているため、教員の経験にかかわらず指導できる。
- ・UDフォントや、マークを含め全ページにわたるカラーユニバーサルデザイン、色覚特性への対応等、多様な特性に応じる配慮がされている。これらの点から、「日本文教出版」の教科書が優れていると言えます。

続いて保健体育です。資料25～27pをご覧ください。

- ・資料を通して考える学習活動が設定されており、習得した知識を活用し、根拠を明らかにしてより深く思考できるよう大変よく配慮されている。
- ・「活用する」「広げる」「読み物」などの項目で構成され、扱われる内容も身近な事象を紹介するなど、家庭実践を促すように配慮されている。
- ・保健体育科と他教科の学習内容との関連が明記されており、関連する学習内容について総合的かつ系統的に学べるように工夫されている。
- ・「見つける」「課題の解決」「広げる」という学習の流れを想定した構成となっている。また、生徒が日常生活について見つめ、考えられるよう問いが設定されている。
- ・見出しや重要語句にUDフォントが用いられており、視認性を高めている。また、巻末のキーワード解説、各章末の学習内容の理解・定着を確かめる問題が位置付いており、主体的な学習を進めるための工夫がされている。これらの点から、「東京書籍」の教科書が優れていると言えます。

続いて技術です。資料28～30pをご覧ください。

- ・どの編においても「技術の原理・法則と仕組み」「問題解決」「社会の発展」という順に構成されており、学びやすい配列で必要な知識及び技能を習得できるように工夫されている。問題解決の学習過程に沿って構成され、「問題解決カード」を使い、主体的に学習できるようにしている。
- ・各編の導入では、技術の見方・考え方を働かせながら、どのように最適化し、活用していくかという視点で具体例が多く紹介されている。また「やってみよう」や「調べてみよう」のように、家庭でも取り組みやすい内容と量になっている。
- ・「技術の匠」の中で、技術開発に携わる方を多く紹介している。
- ・「導入」「展開」「まとめ」の構成で、教科書の流れに沿って授業を組み立てることができる。さらに、各節の冒頭には、「目標」「キーワード」が示され、授業のポイントがわかりやすいよう配慮されている。終末には、評価がしやすい工夫がされている。
- ・UDフォントを使用し、題、本文、作業の説明、図等でフォントの種類や色、大きさが使い分けられており、どの生徒にも読みやすいよう配慮されている。これらの点から、「東京書籍」の教科書が優れていると言えます。

続いて家庭科です。資料 3 1～3 3 p をご覧ください。

- ・「B領域」「C領域」「A領域」の順で、自身から家族・地域へ、自立から共生へ時間軸と空間軸を意識した配列が大変よく工夫されている。
- ・編の導入に、写真やイラストから学習の見通しがもてる工夫がされている。「生活の課題と実践」は、問題解決の道筋に沿った実践が提示され「課題の決め方」と実践方法、思考ツールが示されよく工夫されている。
- ・「だし」の取り扱いでは、混合だしと煮干しだしの取り方、発展題材の「具だくさんのみそ汁」が示され、小学校の学習と関連させる工夫がされている。「蒸す」では、蒸し器がない場合の調理方法が示されている。
- ・製作場面では、知識・技能を確認後、実習、簡単な小物、リメイク、幼児の小物へと発展させる配列により、関わる人を広げて身に付けた知識・技能を生活に生かす工夫がされている。実習例は4品ある。
- ・実習の手順は、左から右に横の流れで大事な部分は太字、大きな写真で提示され手順が分かりやすく工夫されている。左利きの例も提示されている。これらの点から、「東京書籍」教科書が優れていると言えます。

続いて英語です。資料 3 4～3 5 p をご覧ください。

- ・各単元の言語活動の構成には、「目的・場面・状況」を理解するための導入や、概要を把握するための「3段階読み」などの工夫があり、大変よく配慮されている。
- ・SDGsに関連した各諸課題について、私たちにどんなことができるかを主体的に考えたり、表現したりできる活動が十分できるよう図られている。
- ・ICTを効果的に活用して学習ができるよう、大変よく配慮されている。また、第1学年Unit 1～5の導入時期は、音声中心に活動するよう構成されているなど、小中の接続が大変よく図られている。
- ・「扉」の単元を貫く目標や終末の活動など、経験の浅い教員でも指導内容を容易に理解し、評価しやすいように十分配慮されている。また、図などを用いた文法の説明や基本文をまとめたページなど、生徒が自主的に学べるよう大変よく工夫されている。
- ・紙面サイズが大きく、各ページともすっきりと見やすい。また、ページ数にもよく配慮されている。全学年、小学校単語リストを収録し、小中の接続にも配慮されている。これらの点から、「東京書籍」の教科書が優れていると言えます。

最後に道徳です。資料 3 6～3 7 p をご覧ください。

- ・「いじめ問題」と「生命の尊さ」について、全3教材のユニット構成とされており、適切な時期に複数の内容項目から多面的・多角的に捉えられるよう構成されている。
- ・言葉で表現することが難しい心情の変化を可視化し、自己との対話を通して捉えられるよう「心情円」が準備されている。また、資料の内容を厳選

し短時間で内容理解することで、自分との関わりを視点に考える時間が確保できるよう工夫されている。

- ・教材ごとに教科との関連をマークで示している。また地域に関わりの深い教材として「6千人の命のビザ」や、「ふるさとのために」で恵那市串原が取り上げられている。
- ・巻頭にオリエンテーションが位置付けられ、「考え・議論する道徳」の学習方法を体験しながら確認できる。どの教材も、設問が「考えよう（中心発問）→自分を見つめよう（自己を振り返る発問）」という流れで示されている。
- ・UDフォントの使用や、目次にある教材が4つの視点別に色分けされている工夫など、視覚特性の視点から情報が整理しやすいよう配慮されている。これらの点から、「東京書籍」の教科書が優れていると言えます。

簡単ですが、説明は以上でございます。

採択関係資料1 / 3の2pの議決書にありますように、東濃採択地区協議会が決定した事項を尊重した議決をよろしくお願いいたします。

◆【議長：山田教育長】

それでは、委員の皆様からご意見をいただきたいと思えます。本来ならば種目ごとに議決をすることが本意ではありますが、全体一括での採決を行います。どこからでも結構ですので、質問やご意見をお願いします。

◆【伊藤教育委員】

閲覧をされた市民の方の意見は出ていますか。また、何人くらい閲覧していますか。

◆【事務局説明員：三宅教育次長】

東濃地区で学校関係者75名、教育委員会関係で33名、一般48名、合計156名の方が閲覧しています。意見と来場者数については9月1日より公開となっています。

◆【伊藤教育委員】

土岐市では一般の人は何人閲覧していますか。

◆【事務局説明員：三宅教育次長】

土岐市の一般の方で記名されたのは4名です。

◆【伊藤教育委員】

土岐市の方はコメントを入れてありますか。

◆【事務局説明員：三宅教育次長】

集約されたコメントに市名がないので、土岐市の方がコメントしているかどうかは分かりません。

◆【大野教育委員】

使用する教科書を絞り込むのは大変な作業であることを推察します。教科書で子どもの人生が大きく変わることはないと思いますが、一つ一つの指導を現場の先生方が丁寧にされていると感じています。学校を参観したときに、社会科などで「考えよう」という課題がありましたが、子どもだけで考えられるかは心配される場所です。個人学習にもヒントなどの対応することも大切であると思います。

◆【伊藤教育委員】

事前に国語の教科書しかしっかり閲覧できなかったのですが、どの教科書にもある「走れメロス」に着目して見てみました。かなり詳しい視点、かつ変わった視点で書かれているのは教育出版です。ちょっと詳しすぎる感じもします。それに比べ、三省堂の方は最低限のヒントがあります。光村図書は視点がぼやけていると感じました。教科書が示す視点によって教材の読解がどこまで行えるのかは心配される場所です。教材も定番のものがいくつかありますが、他のものは改訂のたびに教材が変化しています。

ちなみに全体の教科書採択の会社を前回のものと比較するとほとんど変化がありません。今年変わったのは技術と外国語のみです。中身は違っていると思いますが、同じ会社が選ばれてしまったということなのではないでしょうか。

◆【事務局説明員：三宅教育次長】

調査員は、現行で使用されていることは、選定の際の視点には入れていませんが、調査研究を進めた結果、今回の結果に落ち着いたということです。

◆【伊藤教育委員】

教材が変わっても会社の変化はほとんどないということですが、外国語などを見てみると、東京書籍の方が読みやすい、見やすい感じはあります。教科書改訂といっても、教科書の内容や方針が大きく変わることはないということを感じました。

◆【大橋教育委員】

内容や方針を大きく変えることは教科書採択にとってはマイナスになるのでしょうか。昨年参加させていただいて感じましたが、各専門の先生方が調査研究をしており、ベテランの先生もいる中で、これまでやってきた教え方に合っているものが好まれると思います。現場でやっている先生方が選んでいるものなので間違いはないと考えています。

◆【議長：山田教育長】

これまでやってきた流れが強く、新しい視点を入れるのは難しいと思います。この中で今回の外国語はよく変えたと考えます。

◆【伊藤教育委員】

自分自身は教科書で勉強してきたタイプです。だから教科書だけで学習は足りるのか、塾にも行けない子が教科書だけで十分かという視点で考えます。国語などを見ても、選ぶ教材が全てであると考えます。ずっと変わらない教材もありますが、教材をどう解釈していくのか、どう手助けしていいのかも大事だと思います。

昨年度学校を参観したときに、文語の俳句も扱うなど、俳句の学習も幅広く行われていましたが、古典の学習についてもよく工夫して授業されていました。現代版の枕草子を考えさせるなど、昔よりも進歩のある学習がされています。

ただ作る方も選ぶ方も大変な作業であると感じます。また、最近の教科書は紙の質がよくなったせいか1冊が重い感じがしますが、そのことも問題になりましたか。

◆【事務局説明員：三宅教育次長】

重さも話題になり、実際に重さも量っています。雨のことも含め、耐久性も考えられています。

◆【大橋教育委員】

日本はどのくらいで教科書がなくなっていくのでしょうか。教科書を使っていない国もあります。デジタル化も進んでいる中で、毎日重いのは大変だと思います。

◆【議長：山田教育長】

デジタルの話も出ていますが、現実的ではないと思います。

◆【加藤教育委員】

デジタル化に関連して、GIGAスクールに関連して、ICTを活用したコンテンツのレベルはどうでしょうか。

◆【事務局説明員：三宅教育次長】

今回の採択は、QRコードの中身までは選定の要素になっていません。QRコードの中身は来年度までに会社の方でさらに整備されていきます。タブレットが導入されれば、さらに有効的に使えると考えます。

◆【大橋教育委員】

教科書が今後どう進化していくのか、興味があります。

◆【議長：山田教育長】

自分たちの頃は教科書を教えてもらうものという感じがありましたが、今の教科書は自学自習的なものに近づいています。そういった力をつけていくことも必要です。

先程の話の中にもありましたが、教材や教科書自体の中身については会社の主張があります。個人的な意見ですが、このような中で東京書籍はさらにパワーアップ、教育出版が力を伸ばしてきていると感じました。

◆【伊藤教育委員】

東京書籍の公民にある「契約」の説明が非常に分かりやすくおもしろかったです。

◆【大野教育委員】

他市の教育委員との会話の中で、この教科書でもう一度勉強したいという話になりました。今だからそう感じると思いますが、国語や地図、道徳なども大変おもしろく見やすいと感じました。

◆【議長：山田教育長】

いろいろご意見をいただきありがとうございました。

それでは、議決書1、令和3年度使用中学校用教科用図書についてですが、令和2年度教科用図書東濃採択地区協議会において決定した採択の案の通り、土岐市として可決したいと思います。委員の皆様、ご意見はございませんでしょうか。

<採決>

このことについて「全員一致で議決」とさせていただきます。

それでは、日程第4、議第21号につきまして、令和3年度に使用する小・中学校用教科用図書について、「令和2年度教科用図書東濃採択地区協議会において採択した原案通りのものとする」ことを、土岐市教育委員会においても議決いただきましたことを確認させていただきます。

どうもありがとうございました。